



受賞者のプロフィール

合唱団の育成に熱情をこめてタクトを振る桐林正治さん。二十二日の贈呈式を前に二人のプロフィールを紹介する。

音楽

桐林正治さん

まらぬ時期だった。以来十三年間タクト振り続けて団員の指導、育成に情熱を燃やすかたわら、合唱団のために作曲を手がけて来た。「釧路湿原賛歌」を四十四年に、

だ。

共栄中時代、教え子の中に海難遺児となった女生徒がいた。彼女の書いた詩を釧路市文芸協会長の荒沢勝太郎氏が補作、桐林さんが室内楽の曲にまとめた。この「海を向いて」は同年の道芸術祭に出品したところ、道文化奨励賞を受賞、また海難の悲惨さを強く訴えて全国から注目を集めた。「合

芸術郷土革新

「信じられない気持ちです。大きな重いものを両手に抱きかかえたような…」と、受賞の重みを噛みしめる桐林さん。釧路混声合唱団の常任指揮者として地元音楽の底辺を育て、また釧路湿原、丹頂鶴、北洋での海難事故など郷土の風土と生活を歌いあげる作曲活動は精彩を放っている。

学校で教鞭を取っている。釧路混声合唱団との出会いは釧

路へ来て間もない四十三年、合唱団から指揮の依頼を受けて常任指揮者を引き受けたが、合唱団自体は四十八年に作曲した「海の努力を続けたい」という桐林さん

郷土に根ざした作曲

釧路混声合唱団で指揮活動

続いて四十七年にはアイヌの伝統をテーマに「組曲・丹頂」を作曲、の母体になっている。釧路には創作意欲を刺激する素材が多く、これからも郷土を描く曲作りに一層

んは、釧路交響楽団のためにオー

郷土にテーマを追求して作曲活動を続けたい」と話す桐林さん

生まれ。東邦音楽大学作曲科を卒業後、四十一年に釧路へ。弟子屈中、旭小、共栄中を経て現在は鳥取中

スタートして二年、まだ基盤の固

を向いて少女が一人佇っていた

は、釧路交響楽団のためにオー

三角野郎

木崎ゆきお

